



逗子に新しい風を！

逗子市議会議員

やぎの太郎

<緊急財政対策速報版>

7億円足りない！

財政危機！？

財政調整基金が底をついた！

平成28年度

7.7億円
有った

平成29年度

残り1.0億円
6.7億円
切り崩し

補正予算が組めない

次年度への繰越金“0”円

財政調整基金積立“0”円

次年度以降の予算が組めない

何故減ってしまったの？

財政赤字を財政調整基金で穴埋めした為
前年度を元に予算を組んだが

税収不足・交付金減少・交付税不足で

平成28年度決算が赤字

(合計7.2億の歳入不足)

税収
-1.9億

交付金
-3.0億

交付税
-2.3億

緊急対策

緊急対策

平成29年度、30年度

市民負担で
7.0億円を
絞り出す！？

財政調整基金とは： 財政悪化に備えて貯めておく「市のへそくり」
一般合計予算（約193億円）の10%（約19億円）が適正とされている

平井市政が責任を認め『緊急対策プログラム』を発表！

(抜粋)

受益者負担	国民健康保険料見直し 保育費見直し 各種団体への補助金・給付金縮小
まちづくり	JR 東逗子駅前活用事業事業化延期 道路維持管理事業縮小 防災工事助成事業休止
緑と平和都市	非核平和ピースメッセンジャー派遣事業廃止 保存樹林奨励事業休止 緑化推進事業休止
市民参加イベント	逗子市民まつり補助金休止 逗子海岸花火大会補助金休止 ふれあい祭り廃止
お年寄り	高齢者センター浴場休止 池子デイサービス施設休止 敬老祝金・敬老会開催廃止
子育て	幼稚園就園奨励費補助金廃止 親子遊びの場支援事業補助金休止 小児生活習慣病予防事業廃止
学校教育	少人数指導教員・教育指導教員縮小 交通整理員の配置廃止 国際教育推進事業縮小
公共施設サービス	図書館 平日閉館時間 20時から18時に短縮 福祉社会館休館日なしが土日全休 第一運動公園 飯島公園プール公開期間短縮

お年寄りや子供達に負担を強いいる対策ばかり！

市側（平井市長）が提案する対応策

人件費削減と職員削減で 2.7 億円コスト削減！

- ・特別職職員の給与削減（計 1000 万円）

市長 35% (500万) / 副市長 30% (300万) / 教育長 30% (200万) カット

- ・一般職職員の給与削減（計 1 億 600 万円 時間外勤務手当除く）
- ・一般職員の時間外勤務手当削減（計 400 万円）
- ・職員数（一般職職員・非常勤事務嘱託員）の削減（計 600 万円）
- ・行政委員会等の非常勤特別職員の報酬見直し

議会側の対応策（責任の取り方）に関する私の考え方

日当制による議員報酬の大幅削減！ 年間約 3600 万円削減！

本来ならば、約 5 万 7 千人の逗子市民全員が議員となり、逗子市政の物事を決めることが理想です。しかしながら多くの市民は、日々の仕事や子育て等で忙しい。だから議会（代表制）が存在しています。「議員定数の削減」という議会費の削減方法もありますが、むやみに削減すれば **少数意見が排除抹殺**（多数決であれば最低 3 人で決めることができる）され、一人当たりの議員の権力が集中し増大することになります。それによって、特定の組織に支えられた議員に近い市民だけが市政の恩恵を受けるようになってしまふ弊害が出てきます。よって私は **日当制による神奈川県の平均年収の 544 万円以下**（現在から 27% 以上の削減を）を目指すべきと考えます。

そもそも「議員を職業にすべきでない！ 地方議員は副業でやるべき！？」

現在、日本以外の多くの欧米諸国では「**地方議員は副業**」が当たり前になっており、私もかねてからそうあるべきと主張してきました。今回はその理由について、スウェーデンの街オーベルトーネオ市議会を例にご説明させていただきます。スウェーデンの地方議会の議員という仕事は、副業が普通となっています。この市では 32 人の政治家いますが、市長だけが専業で、残り 31 人の議員は全員、他に本業を持っており、政治家の仕事は副業です。本業は農家だったり、市の職員だったりと様々。これは一長一短ありますが、副業ということは落選すれば無職、というリスクはありません。**日本の政治家が最も恐れるのが落選（失業）**なので、**当選に結びつく活動を優先してしまったり、利権構造が作り出されやすくなっています**。また、不祥事を起こしても「報酬欲しさに議員の職にしがみつく」という行動もおこりやすくなってしまっています。一方、オーベルトーネオ市の議員は、会議に参加した日数や時間に応じて給料が支払われます。（日当制）つまり、サボって仕事をしなかったら、その分給料がもらえない。（そんなの当然ですが、それが日本ではできません！）その代わり、議員の仕事によって本業を休まなければならなかつた場合、その分を補てんする額が支払われたりするようです。

因みに、スウェーデンの議員報酬は、自治体によって大きく異なるそうで、例えばこのオーベルトーネオ市はとても低く設定しているそうですが、すぐ隣の自治体では 10 倍近い報酬のこと。ただ、10 倍といつても日本よりは低く、議員だけで食べていくのには難しい程度だそうです。したがって低額報酬の自治体では、政治家がほとんどボランティア状態になっています。議員報酬が低い理由は色々あるようですが、この市の場合、財政が悪いからではありません。オーベルトーネオ市は、スウェーデンでも有数の優良財政な自治体です。にも関わらず報酬水準は、低く、年収約 40 万円。財政状況と議員職の大変さを考えると「もっと上げていいくらい」と議論している最中なのだと思います。そんなに報酬が低くなつても議員をやりたい政治家が、日本にいいたい何人いるでしょうか…。

つまりどういう事かというと、スウェーデンでは政治の仕組み自体が、政治をクリーンに保つようにできているのです。政治家一人一人や支持者に高いモラルを求めることが大切ですが、利権を生まないようクリーンにさせるような仕組みを構築することも大切だということ。政治家は腹黒いもの、とあきらめてしまうのではなく、**政治家が腹黒くならなくて済むような、腹黒い人が政治家になりたくなくなるような仕組みを作ればよい**と思うのです。地方自治体の政治家の事一つとっても、大きな違いのある日本とスウェーデン。どちらも一長一短はありますが、日本が学べる点はいくつもありそうです。

逗子の市議会議員をはじめとする日本の地方議員は年間 90 日程度の本会議や委員会に出席さえすれば、他は基本的に自由行動です。それで年間 745 万円（逗子市）の報酬は高すぎる！ やはり日当制による大幅な削減をするべきと考えます。

また、専業の議員がいくら定数削減や報酬削減をうつたえたところで説得力がなく、いつまでも身を切る改革はできないでしょう。そもそも地方議員は一般市民の代表者であり、「**一般市民と同じように働く目線**」で市政に参加するべきだと思うのです。

行政にも民間の視点を！



八木野 太郎（やぎの たろう）

昭和 55 年 5 月 31 日 逗子生まれ逗子育ち

逗子市議会議員 1 期目 / 現 IT 関連企業社長（12 年目）

逗子市商工会会員 / 逗子防衛協会会員

逗子教育改革推進協議会顧問

政治信条 / 正しいと思った事は貫く！

☎ 0467-40-5520 ✉ info@yagino-taro.jp

やぎの太郎 [\[TOP\]](#) でネット検索！市政に関するご意見お寄せください！